

くらし 部会

部会長:萩原真理 副部会長: 高波千尋・大西明美 運営委員会担当者 :勝山淳一
ケアマネ連絡会担当者: 浅野恵子・浅井芙美子 長野市障害福祉課担当者 :小林昭雄

1、年間テーマ

- ・くらしの地域課題の検討
- ・世話人連絡会の開催について

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
5	18	森と木 365	10	くらし部会計画について	・第1回執行部顔合わせ ・今年度の方向性
6	14	森と木 365	9	GH サビ管連絡会について	・第2回執行部 ・GH サビ管連絡会担当決め
7	19	にじいろキッズ ライフ	9	GH サビ管連絡会について	・第3回執行部会 ・GH サビ管連絡会打ち合わせ 【世話人とサービス管理者の関わり方 あったらいいな、こんなグループホーム】
8	18	zoom開催	8	GH サビ管連絡会について 昨年度の課題検討	・第4回執行部会 ・GH サビ管連絡会開催方法について ・中山間地域のサービス実施状況について ・行動援護実施状況について
9	27	Zoom 開催	9	GH サビ管連絡会について	・第 5 回執行部会 ・研修会打ち合わせ
9	27	zoom 開催	9 8	GH サビ管連絡会開催	【世話人とサービス管理者の関わり方 あったらいいな、こんなグループホーム】
10	20	森と木 365	9	GH サビ管連絡会の反省 昨年度の課題検討	・第 6 回執行部会 ・GH サビ管連絡会アンケートのまとめ ・昨年度の課題について検討
2	9	森と木 365	9	昨年度の課題検討	・第7回執行部会 ・中山間地域障害サービス実施状況について ・行動援護実施状況について

令和4年度 事業報告

					・アンケート作成・発送
3	7	森と木 365	9	R4活動のまとめ	・第8回執行部会 ・R4 活動の反省 ・課題アンケートから来年度の課題について

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

- ・GH サビ管連絡会 グループワーク報告(別表 1)
- ・行動援護実施状況に関するアンケート結果(別表 2)
- ・中山間地域障害サービス実施状況についてのアンケート結果(別表 2)

4、課題について

(1)主な検討課題

1. 世話人連絡会について
2. 昨年度からの課題について
 - (1)中山間地域における障害福祉サービスの実施状況について
 - (2)行動援護の受け入れ事業所について

(2)検討の目的と結果(現状)

1. コロナ感染拡大の為、世話人連絡会の開催は難しく、今年度はサービス管理者を対象とした zoom の研修を行った。
内容は、令和3年度グループホーム世話人アンケート結果をもとに、世話人とサービス管理者の連携方法、緊急時の対応、サービス管理者が考える【あったらいいな、こんなグループホーム】の意見を出し合った。
2. 昨年度の課題については、現状を知るためにアンケートを実施。
居宅介護事業所と、保健センター宛に依頼。事業所での課題をまとめた。

(3)引き続き検討が必要とされる課題

- ・中山間地区障害サービス実施状況。行動援護を受け入れる事業所の課題についてアンケート結果からくらしの課題を把握する。
アンケート結果をもとに問題意識を共有し情報共有の場を設ける。

令和4年度 事業報告

(4)部会の運営体制について

今年度の執行部は、コロナ感染対策の為、開催方法など判断に迷ったが、zoom を使い各事業所と連携をとりながら部会の運営を実施した。

くらしに関わる地域課題については幅が広いため地域の課題を検討するのであれば GH,短期入所、施設入所、居宅介護事業所の参加が望ましい。

5、総括(1年間を振り返って)

・コロナ禍以前に行っていた世話人連絡会については今年度も開催を見合わせた。代わりに、サービス管理責任者の方を対象としたZoomでの GH サビ管連絡会を初めて行うことができた。

昨年度からの課題については、居宅介護事業所や保健センターにアンケートを依頼し調査を行った。様々なご意見を頂き次年度への課題として引継ぎを行う。

令和 4 年度 暮らし部会【サビ管連絡会】グループワークのまとめ

テーマ:「あったらいいなこんなグループホーム」

開催日:令和 4 年 9 月 27 日 (zoom 開催)

参加者:暮らし部会執行部(9 名)・サービス管理責任者(8 名)

① サービス管理者と世話人との連携方法について

- ・毎月、世話人と面談を行い担当グループホームの情報共有をおこなっている。
- ・2 か月に1回各ホームに訪問。今年度より、支援アドバイザーとして所長も行き、支援員、看護師の3名で訪問。所長が同席することで世話人にも話が伝わりやすい。
- ・月1回は世話人を交えて、利用者の様子について意見交換を行い、障害特性や権利について話をしている。また、世話人には日々の支援でちょっとした困りごとでも、電話で連絡をしてもらいたいしている。
- ・コロナ禍で会議等の開催が行えないため、月1回訪問して情報共有をしている。
- ・世話人への情報伝達は、電話やメール、ファックスを送って対応しているが、連絡ミスも多々ある。どのように伝達をすればいいのか課題。
- ・GH が点在しているため zoom で週 3 回情報を共有。
昨年度から施行。GH に 1 台 PC を設置している。世話人が高齢で最初は混乱も見られたが現在は滞りなく行えている。
- ・世話人会議の開催。適宜業務日誌を確認する。
- ・できるだけホームに出向き、話を伺う。
- ・以前は職員が毎日ホームに訪問していたが、職員数の問題や職員の負担が大きいため、定期的に連絡会を開催するようにした。所長、サビ管、支援員で訪問し話をすることで世話人も安心感を得られているように感じる。

② 緊急時の対応

- ・月の半分は通院対応をしている。
- ・週末スタッフが不在時に利用者が体調を崩し本人が救急車を要請することがあった。

世話人も職員もいない状況時の体調不良などの連絡方法が課題。

○不穏時、救急通院(コロナ対応)

- ・連絡網があり管理者に連絡が行くようになっている。
- ・かかりつけの医師(北、南 1 か所ずつ)がいて職員が通院に同行する。
- ・看護師が感染対策をして通院同行。助成金でプレハブを建て隔離対応が可能になった。
- ・世話人、職員から利用者に感染しないように工夫をする。(県外在住者と接触があった場合は出勤しないようにする等)日中活動先で感染者たてた場合も、近場の薬局と提携し検査を行っている。

③ 高齢化に伴う支援、介護保険への切り替え

- ・GH 自体が高齢の方向けで設立。70 歳以上の方がいる。GH での生活が難しくなってきた場合は介護施設の見学も行っている。ケアマネ、家族も介入し、介護施設へ移行した方もいる。

- ・高齢化に伴い支援することが増えている。
- ・年齢が 65 歳を迎えた方、保健センターにサービスの切替えについて相談をしているがその先に繋がらない。
- ・年齢が 75 歳を超える方、要支援2の方でも高齢者施設の受入れ先が見つからない。
- ・建物に段差があるなどバリアフリーになっていない。玄関、トイレ、お風呂場が狭いが改修工事も難しい。
- ・70 代にも働きたい意欲がある方が多い。なかには B 型に移行する方もいた。
- ・市からは介護保険に切替えてほしいと申立てがある・ないなど、市町村によって差がある。
- ・介護保険手続きは、地域包括支援センターに依頼して行ってもらっている。
- ・介護保険の手続きを進めるが、就労支援と介護保険サービスを併用している人もいる。
- ・介護保険は実費負担が大きく金銭面で厳しいという方も中にはおり、切り替えできないケースも多い。

④ サービス管理者が考える「こんなグループホームがあったらいいな」

- ・普段感じていることを、世話人を交えて話し合える時間は必要で大切にしたい。
- ・日々いろいろと課題はある。すべて対応することは難しいが、利用者からの困り感、世話人からの困り事も支援者に話せる環境は大切であり、利用者の生活を豊かにすることにも繋がるのではないかと。
- ・グループホームは楽しく過ごせる場所。居心地のいい環境を整えることも大切。
- ・当番制度に苦しんでいる利用者もいる。得手・不得手もあるので配慮しているが、利用者同士でギスギスしているときもある。それを改善し、ホットできるホームになればよい。
- ・利用者が居やすい場所、「自分の家」と言える場所になること。
- ・利用者だけでなく、どこに居る職員・世話人も皆が楽しいと思える居心地の良い場所になること。
- ・楽しく地域で生活していくために、地域とのかかわりを持ちながら生活していく。

⑤ その他

○ホームの老朽化について

- ・中古物件に新たに移住していく予定。
- ・立地が良いため修繕しながら住み続けていく。
- ・老朽化が進んでいるため、現在の入居者がいなくなっても入居者は募らない予定。
- ・引っ越しを検討している利用者が居るが、大家さんが都内在住で連絡がつけづらい状況時間をかけて行っていく。

○個別支援計画について

- ・どうしても支援者目線になりがちになってしまう。

普段の生活の中で「こういうものが好き」「わくわくする」等情報を収集していく。

○ホームの環境整備について

- ・ホームの草取りなど利用者と一緒にやる。
- ・ボランティアや、他事業所(就労施設など)に依頼している。利用者とも行っていたが高齢化が進み困難。

○物価の高騰について

- ・食品の値上げをした。
- ・ホームによってばらつきはあるが、値上げをしているホームもある。
- ・安価な物品等を購入するなど工夫して買い物をしている。
- ・以前勤務していた方が、野菜などを差し入れてくれて助かっている。

以上

令和4年度 暮らし部会 地域課題アンケートのまとめ

アンケートのテーマ

① 行動障害の受け入れ事業所が少ない(居宅介護事業所)

(居宅介護事業所:9 事業所より回答あり)

- ・受け入れている(5 事業所) ・受け入れていない(4 事業所)
- 受け入れている事業所の課題
- ・新規や行動援護を増やしたいと相談はあるが、対応しきれていない。(4 事業所)
- 受け入れていない事業所の課題
- ・人材不足・スキル不足(2 事業所)
- ・今後も受け入れる予定はない(3 事業所)

まとめ

いずれも人材が不足していると返答が得られた。その他の意見として、行動援護に限らずどこの事業所も人材が不足している。ふくしネット全体で障がい分野に人材が増える取り組みを考えてほしい。

その他のご意見

- ・学生に障がい福祉現場を知ってもらったり、ヘルパー2 級や介護福祉など資格を持った方に現場を知ってもらおう企画などを設けたらどうか。
- ・期間限定でもいいので行動援護と移動支援の併給も含め検討してほしい。

② 中山間地のサービス提供や移送について

【居宅介護事業所9事業所】

○サービスを提供している(2 事業所)

- ・移動に時間がかかる。
- ・人材が不足している。

○サービスを提供していない(7 事業所)

- ・移動に時間がかかる。
- ・人材不足の為、他の福祉サービスに影響が出る為提供できない。
- ・ヘルパーの移動時間も補償しなければならず、赤字になってしまう。時間の確保も難しい。
- ・中山間地区に関わらず人材不足の為サービスの提供は困難。
- ・事業所から遠いところは行き帰りに時間がかかり難しい。

【保健センター9事業所】

○サービスに関する相談を受けている(9 事業所)

- ・家族だけでは支援の負担が大きい(戸隠)
- ・介護者の高齢に伴い福祉サービスを検討したい(戸隠)
- ・放課後デイサービスなど送迎範囲外の為利用が難しい(戸隠)
- ・買い物支援は地区内に店舗がなく地区外では移動に時間がかかり支給量での利用回数に限界がある。(戸隠)
- ・日中働く場が欲しい。就労支援が近くにない。
- ・生活支援の相談があるがどのようなサービスがあるのか。
- ・買い物、通院の移動手段がない。
- ・精神疾患、身体の痛みの為か家事などが難しくなっている。
- ・本人、家族、障がいサービスの申請方法を認識できず 10 年以上サービスを利用できなかった。(自立支援、手帳更新、年金)
- ・ひきこもりで本人に会えない。自力で相談、通所ができない。

○相談から障害サービスにつながった例

- ・短期入所、ショートステイ ・ホームヘルプサービス・訪問看護 ・就労 B 事業所、就労移行
- ・入浴支援 ・福祉タクシー ・精神手帳・痔理逸胃炎医療・障害年金・自動車税減免

○相談から障がいサービスにつながらなかった理由

- ・利用目的が合致しなかった ・自宅の訪問や他事業所の移行は拒否
- ・社会参加、医療受診の拒否がありサービス利用の手続きまで至らないが、定期訪問を継続中。
- ・就労事業所が近くにないの相談や通所ができない。

以上

R3 年度地域課題への取組 報告書

提出日 令和5年3月3日 部会名・WG名 ぐらし部会 問い合わせ先 みのちグループホームセンター 萩原
026-251-5050

取組んだ課題
 1. 行動障害の受け入れ事業所が少ない
 2. 中山間地のサービス提供や移送の課題

取組んだ内容・得られた結果	今後の方向性	方向性を出した理由
<p>1・行動援護受入れの事業所が少ない 居宅介護事業所に【行動援護の実施状況に関する情報提供のおおいのアンケートを作成し回答を依頼。抱えている問題を把握した。アンケートの結果から相談はあっても人材の不足・職員スキル不足で対応することが出来ていないと課題が上がった。</p> <p>2・中山間地のサービス提供や移送の課題 居宅介護事業や保健センターに【中山間地域に於ける障がいサービスの実施状況に関する情報提供のお願い】のアンケートを作成し回答を依頼。抱えている問題を把握した。 得られた回答内容から人材不足・移動時間が長い、利用したい方の送迎費用の負担が大き、などの課題がある現状を知ることができた。サービスにつながらなくても保健師の見守りが出来ており相談員とも連携が取れていることもわかった。</p>	<p>■ 継続</p> <p>■ 終結</p>	<p>アンケートだけではわからない具体的なサービスの実施状況や課題を把握するため、居宅介護事業所の情報共有の場を設ける。かつどう部会とも情報を共有する。</p>

※提出先:長野市障害ふくしネット(協議会)事務局 長野市南部障害者相談支援センター メール:fnnet@hynet.sakura.ne.jp